二人だけの生活はそれで何とかまかなうことができますが、そのうち、父の入院や弟の進学などで、どうしてもお金がいるようになりました。役所に勤めることはあまり好まなかった季昌ですが、ついに明治八年（一八七五年）警視庁に勤めることになりました。

その後、季昌は山形県や福島県の課長や郡長を数多く勤めるのですが、特に山形県では、三島通庸の信任が厚く、三島通庸が福島県令（知事）になると、福島県によばれて県内のあちらこちらの郡長をつとめることになります。

季昌の仕事がきまると、生活はようやく安定してきました。明治十五年（一八八二年）には、ようやく子どもも生まれ、モトと名づけられて、親子三人幸せな毎日でした。福島県内のあちらこちらの郡長を勤めた夫の季昌に従って、リンは転々と引越しをしながらも、よく夫につかえ、家を守ってきました。

明治十九年（一八八六年）、夫の季昌が東京の警視庁に勤めるようになったの